

「原子力委員会政策評価部会 ご意見を聴く会」

参加募集時に頂いたご意見

「原子力委員会政策評価部会 ご意見を聴く会」の参加募集時に頂いたご意見について、個人が特定される情報を除き掲載しています。

No.	御 意 見
1	<p>原子力の利用に際し投入される放射線防護に関するコストは自然環境や人体への影響を考慮しつつ過剰であっても過小であってもならないと思います。</p> <p>自然環境や人体へ影響を与えうる放射線量についての認識に違いがあるように感じる。また与える影響も悪影響と好影響とが存在する事実があるよう見受けられる。</p> <p>現行法によるとその許容域はそれを超えると悪影響が出ると示唆するものなのか。それとも悪影響というより別の規制の観点からそうなっているのか混乱してくる、</p> <p>実際の安全域の再検討もおこなうべき時期にあると思う、いわゆる「しきい値理論」についても検証すべきではないか。放射線は人体に対して絶対悪という極端な放射線に対する恐怖が一人歩きしている現状を変えていく為にも施策が必要である。</p> <p>風力発電や太陽光発電など自然エネルギー開発の現状と見通しは、原子力開発の今後の必要性を計る上でも必要であると思います、しかし最近、過剰にこれらの自然エネルギー開発が未来のエネルギー問題を解決しうるかのような風潮があるように感じます、実際には原子力開発なくして今後のエネルギー確保が難しい事は明らかである、にもかかわらず原子力開発のイメージにはマイナス部分を感じる人が多い、これは露出される時が事故などマイナス要因の時ばかりであることも一因だと思います、これらのイメージを変えていくための施策は無いのか、またこの部分にこそより一層コストをかけて行くことも大切な事と考えます。</p>
2	<p>○中間貯蔵施設及びその後の処理の方策について</p> <p>中間貯蔵施設の建設の推進に対して、取組の一層の強化が必要とありますが、電力各社はもちろんのこと、国としても広聴・広報活動を強化していく必要があると考えます。</p> <p>原子力政策に関心の薄い人というのは、原子力に対して理解が進んでいないと考えられますので、広く一般の方が理解し易い、わかり易い広報を実施するにはどうすればよいのか、その点においても別途議論する必要があるのではないかと考えます。</p>
3	<p>例えば、核燃料サイクルに反対している人たちはどのような点に反対しているのかが知りたくて参加しようと思いました。なお、私は核燃料サイクルが必要であると思っています。</p>
4	<p>・原子力立地やサイクル施設の新規立地が進まないのは、国民がNIMBYになっているせいである。民間企業では安全や安心の点でどうしても弱い。国が半永久的に、地域の面倒を見る。地域の医療や福祉、教育や雇用に関して責任を持って十分な手当をするという保証が必要。NIMBYを克服するには、それだけのメリットが必要である。企業立地についても、もっと徹底的に支援して、例えば電気料金はずっとタダにするとか、地元採用者の賃金を補填するとか。誰もが「住みたくなるまち」にして、自治体が困るくらいに厚い保護が必要。排出権取引で外国に無駄な金を出すよりも、原子力発電の比率をフランス並みにして、国内に金を使う方がよほど国益にかなう。</p> <p>・スウェーデンで政府高官が言ったように、原子力を進めて、世界一の環境先進国になるくらいの思い切った政治スタンスが、国民には分かり易いし、納得がいく。今こそ、はっきりとした政治のリーダーシップが必要。地域社会の保護と環境保全の二本柱を徹底的に進める。そのために原子力比率を70%にし、サイクルも確立する。それが福祉と環境立国日本の目標。</p>

No.	御 意 見
5	<p>原子力発電、核燃料サイクルについては、日本のような無資源国では世界に先駆けて実施していく必要は論をまたない。また、二酸化炭素の排出を削減していくうえでの切り札でもある。原子力政策大綱でも上記のことは謳われているが、国民全体での理解がまったく進んでいないことに対する、政策当局としての反省はどうなっているのか。広報予算などを見ても民間のレベルと比較するとまったくお寒い限りである。エネルギーと食糧の確保は古来から戦争の材料になっていることからであるにも関わらずそのことに対する国家としての取り組みにはやる気をまったく感じない。ことに高レベル放射性廃棄物の関連で申し上げるならば、高知県東洋町での事例の際に高知県知事、および徳島県知事さらにはワイドショーのコメンテーター諸氏の暴論に対して原子力委員会および国家機関の皆様から説得力ある反論があったとは記憶していません。そのために、議論がくだらない札びら話で終わってしまったのではないのでしょうか？関係者の方々が種々議論をして憂慮しているとは思いますが、そのことが国民一般にまったく伝わっていないことに強く危機感を持っています。政策には優先順位があるとは思いますが、エネルギー問題の優先順位を高めるべく活動することが必要ではありませんか？専門家の皆さんが議論していることを国民各層に広めていくためには有効な広報施策をとるべきであり、そのための予算措置に向けて原子力委員会として活動すべきであると思います。施策の有効性の不明な定額給付金よりも日本の未来のために生きたお金を使うよう政府を動かしてください。</p>
6	<p>東海地方は、今後30年以内に巨大地震(東海・南海・東南海)の発生が起これと予想されています。もし、万が一にも三つの地震が同時に起こった場合、原子力発電所の施設は安心・安全で十分に耐えられるのでしょうか。教えて頂けないでしょうか。</p>
7	<p>今回、このような機会を名古屋で設けて頂きありがとうございます。 ここ最近の、環境ブームから私も環境問題に興味を持ちました。 エネルギーの有効利用は、地球温暖化防止に大いに役立つと思いますし、同時に、現在の国際社会に対し、積極的に働きかけるという意味もあると考えています。 しかしながら、こうしたエネルギー利用は、核燃料などの極めて危険なものを取り扱うため、それなりの対策などが必要であるとも思います。 従って、今回の「ご意見を聴く会」に参加してこうした問題点について意見交換をし、よりよい環境を築き上げることに尽力したいと思います。 良いお返事をお待ちしております。</p>
8	<p>以下の二点を考慮して基本方針を立案すべきと考える。 ①原子力の開発・利用は100年単位で物事を考える必要がある、その目標としては高速増殖炉の実用化であり、そのためのつなぎとして、プルサーマルの推進と再処理工場の運開を着実に目指すべき。 ②原子力の平和利用は国是であり、その大枠を守ることは大前提であるが、世界を見渡した時には、多のほとんどの国は軍事利用が第一であり、ということは、他国からは日本の本音も軍事利用であると常に見られていることを肝に銘じて、上記①を推進していくべきである。</p>
9	<p>原子力は炭酸ガスは排出しませんが熱はだすので地球温暖化に対しては良くない。化石燃料は熱の排出に関しては貯蓄していた太陽エネルギーに過ぎないので良いとする。が他に有害物質を排出するので具合が悪い。 結果的には太陽光発電、風力発電、波力発電などに重点を移すべきではないでしょうか？</p>
10	<p>地球環境問題、またエネルギーセキュリティーの観点からも、日本では、原子力発電の開発ならびに原子燃料サイクルの確立を急ぐべきと考えます。</p>

No.	御 意 見
11	<p>我が国の原子力発電は軽水炉プラントのリプレース時期をまもなく迎えることになる。当面はやはり軽水炉から軽水炉への切り替えが主体となる。</p> <p>これをスムーズに進めることが電力安定供給上必要である。このため、軽水炉プラントの廃炉処理・廃棄物処分の作業を円滑に進めることができるように一連の法手続き、規程、基準等の整備及び国民一般への説明・理解確保が急務である。ついては、原子力委員会においては、関係省庁をリードし、安全かつ安心のベースでリプレースが推進されるよう強く求めるものである。</p>
12	<p>今現在の文化生活を今後も継続するのであれば、高度成長期とは少々様変わりし今まで以上の伸び率は無いのかもしれないが、日本全体のエネルギーの必要性は今後も変わらないであろう。エネルギー輸入国の日本にとって、原子力そして核燃料サイクルの必要性について言葉・感情では反対するが、なくてはならないことを多かれ少なかれ日本国民は理解しているのではないのでしょうか。ただ何度となく発生している不適切な運転管理、耐震安全性の不透明さ、情報の遅延・隠蔽など、電力事業者の認識不足もコンセンサスに影響していると思われます。</p> <p>今後も燃料となるウランは輸入に頼らざるを得ないが、そのいただいた燃料を日本国内で残すことなく使い切り(サイクル)、そしてその残材は国内で処理・保管する。そんなことは当たり前の話である。</p> <p>国策としての「原子力発電所のエネルギー利用」、これについては、国と電力事業者そして地域社会(立地地点・大量消費地点)とのコミュニケーションが何より大切であり、これまで以上に地方に向けた情報発信を期待します。</p>
13	<p>資源小国日本が他の先進諸国と肩を並べるためには、エネルギーの確保が必要であり、そのためには原子力エネルギーは必須である。核燃料サイクルについても、資源の有効利用だけでなく、自前の資源を確保するという意味からも必要。早期実現を望みたい。</p>
14	<p>原子力政策大綱では原子力開発のための国の役割が明記されていますが、各地でシンポジウムを開催する等の啓発活動は行われているように思いますが、実際の新規原子力立地活動にどのように関わっているのか、全く国の顔が見えていないように思います。</p> <p>新聞、TV等を見る限り、電力会社と自治体が一生懸命に住民との対話を進めているように感じますが、国はどんな役割を果たしているのでしょうか。</p> <p>いろいろな制度や手続きといった机上のことはちゃんとやるから、現地活動は電力会社さん、自治体さんにお任せします、という感じを受けてしまいます。</p> <p>現地活動も実際にやられているのであれば申し訳ありませんが、もしそうならば、もっと国の顔が見えるように活動しなければ、原子力政策大綱の望む姿には近づけないのではないのでしょうか。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素の排出がない原子力発電について、エネルギーの安定的な確保や地球環境の保全を考慮すると、推進していく必要がある。 ・安全確保を最優先し情報公開の徹底が必要である。
16	<p>原子力発電は長期的な視点で開発していくべきだと思います。最近、原油高や温暖化対策として脚光を浴びていますが、短期的な状況に振り回されず、世の中に必要なものですから、安定的に進めていく施策が必要だと思います。</p>

No.	御 意 見
17	<p>原子力の評価については事業者と規制当局が如何に国民の信頼を得られるかで決まると思います。それには情報公開と説明は欠かせませんが、電力会社だけでなく規制当局の説明がさらに必要であると思います。グリーンニューディールは原子力の継続的な発展の上に成り立つものと思います。</p> <p>家庭用電力はある程度自然エネルギーでカバーできますが、ビルの冷暖房や工場の稼働などを考えると、自然エネルギーが主役ではなく、あくまで補てん的なエネルギーであることを理解してもらわなければなりません。未来のエネルギーとして、自然エネルギーがバラ色のように紹介されていますが、一抹の不安を感じずにはおれません。もっと、原子力の必要性についてマスコミも責任ある将来像を提案すべきだと思います。</p>
18	<p>・原子力政策において最も重要で至急に進めなければならない課題は、高レベル放射性廃棄物の地層処分であると考えます。新規の原子力発電所立地を進めていく上でも原子燃料サイクルの確立のためにも、この解決が必要である。廃棄物の処分が確立しなければ原子力発電に対する不安は解消されない。国は掛け声をかけるだけでなく、協力的リーダーシップを発揮して進めるべきではないか。現状の公募方式で進められると考えているのか。公募以外に幾つかの方策を打ち出すべきではないか。</p>
19	<p>○原子力発電</p> <p>・エネルギー自給率向上などのためにも、原子力発電所の増設を着実に進める必要があるのはそのとおりだと思う。</p> <p>中国の餃子中毒事件をきっかけに、食料の自給率問題が注目されているが、エネルギー自給率も海外で何か起こったときには、我々の命に関わる問題であり、その他に地球温暖化問題もある。これらの問題への対応として原子力発電が必要であることを国民に理解してもらうためにどのような取り組みを行うべきか、「ご意見を聴く会」などで、広範囲の専門家から意見を聴いていただきたい。</p> <p>○燃料サイクル</p> <p>・六ヶ所再処理工場の操業開始が遅れている状況や、日本全体で工場の定格処理量以上の使用済燃料が発生することを考えると、国内再処理だけでなく、以前のような海外再処理も検討すべきではないか。</p> <p>・天然ウランの確保について、「もっと総合的な観点で幅広い外交を行う」とあるが、なぜそのような必要があるのか、例えばどのような観点なのか等について報告書では具体的に記載して欲しい。</p>
20	<p>(1)原子力発電について</p> <p>・原子力発電に関する「基本的考え方」には全面賛同するものである。</p> <p>・特に、「新規の原子力発電の立地」形成に向けては、その理解獲得のために国を挙げての取り組みが必要であると考えます。</p> <p>(2)核燃料サイクルについて</p> <p>・エネルギー資源の乏しい日本にあつては、プルサーマル施策の積極的推進が不可欠と考える。</p> <p>・「日本の原子力の安全・品質は世界一」であることをもっと国内外にPRすべきであろうと考える。</p>
21	<p>発電時にCO2を出さない原子力発電は、地球環境保全の観点から優れており、また、昨今のような化石燃料価格の急激な変動にも左右されないため、日本のエネルギーとしてなくてはならないものと考えております。</p> <p>今後も、原子力発電の果たす役割は益々大きくなると考えられるため、既設の原子力発電設備の利用率向上や新規プラントの開発を積極的に進めることが必要であると考えております。</p> <p>原子力発電、核燃料サイクルは、国民の理解と信頼が得られなければ進められず、そのためには、原子力安全の確保が何より重要であると考えております。</p>

No.	御 意 見
22	<p>私の意見としては、核燃料サイクルの基本的な考え方で、「中間貯蔵された使用済燃料及びプルサーマルに伴って発生する軽水炉使用済MOX燃料の処理方策は、2010年ころから検討を開始」となっているが、これだけ六ヶ所の再処理の予定が遅れ、目途がたたない中で、電力各社は中間貯蔵施設建設を急がなくてはならぬことが明らかである。このような状況下で、2010年ころから検討では遅すぎる。</p> <p>原子力委員会では、早急に検討を始め、2010年ころには方針を決定し国民(各発電所地元を含む)に説明し、中間貯蔵した燃料がきちんと処分されることを国民に納得させないと、各原子力発電所は使用済燃料で燃料プール内が一杯となり、発電を続けることが困難になってしまうと思います。</p>
23	<p>施策に対し、賛成いたします。</p>
24	<p>現在の日本の原子力発電についての制度では、事業者の新しい技術の導入や柔軟な発電所の運営が難しい状態であると思う。</p> <p>安全に対する政策は大変重要であると思うが、安全を守りながらも原子力発電を発展させていけるような政策を考えていく必要があると思う。</p>
25	<p>(1)意見:原子力施設の廃止措置の取組に関して 既設炉のリプレイス推進のためには、一方で原子炉施設の廃止措置が計画的になされることも重要と考える。このため、廃止措置についての技術的課題や制度的な取り組み(地域の合意形成や地域共生)が十分であるかを検証し、改善を図っていく必要があるのではないか。</p> <p>(2)意見:核燃料サイクル技術の実用化について これまで主としてJAEAが行ってきた再処理技術、ウラン濃縮技術、燃料製造技術(MOX)、FBRサイクルの開発等の成果やノウハウは実用化技術移転に確実に活かされることが重要である。このため、サイクル技術の実用化には、研究開発を行ってきた技術者と移転を受ける(主に民間の)技術者が一体となって実証プロセスの開発に従事する体制を構築し、技術伝承のための並走期間が設けられることで、人材と技術が確実に伝承されるようになるのではないか。</p>
26	<p>電源を何に頼るかは今世紀最大の課題であります。水力から火力、風力、原子力へと…。危険を伴うこの事業の安全性と現状がよくわからないので、専門家の意見を拝聴致したいのです。</p>
27	<p>原子力については国策であるにもかかわらず、国民的な理解がなかなか得ることができません。2030年以降の目標を達成するために、特に次世代層に対する教育、特に学校教育における原子力に関する内容の充実と、テロ対策もありますが原子力発電所の本物を見ることが理解度の進展につながると確信していますので、次世代層の発電所内部への見学再開を希望します。</p>
28	<p>核エネルギーを有効に活用する事は、石油やLNGといったエネルギー燃料の乏しい我が国にとってまた、地球温暖化を緩和する手段として有効である。このため、手間取っている以下の事項を進めるのが急務である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六ヶ所の運転開始 ・もんじゅの運転開始 ・最終処分設備の解決 ・クリアランス処理の本格実施
29	<p>地球温暖化、化石燃料の枯渇等の理由から、ますます原子力発電の必要性が迫られているが、報道等は事故や反対記事に占められている。また、推進意見のほとんどは原子力に係る団体が発行する書物しか見られなく、一般大衆や教育の分野までは浸透しない。このため、原子力発電の有用性を長期的な視点で小、中学校レベルから教育に組み入れると良いと考える。</p>

No.	御 意 見
30	化石燃料の枯渇、地球規模の温暖化など、地球環境の変化に対応するため原子力対策を積極的に推進してください
31	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の電気エネルギーの主役である原子力に期待します。 ・原子力の推進には国の積極的な取り組みが欠かせません。特に規制の合理化をお願いしたい。
32	原発の先進国フランスで、高レベル地層処分候補地に選定したビュールは永久貯蔵地ではなく、ガラス固化体をいつでも取り出し、移転できることを条件に、100年間の貯蔵を目途に住民の理解を得たと聞いているが、これは事実か。これが事実であるならば、日本でも有効ではないか。やはり何十万年も先のことは誰も理解できる者ではないし、将来の科学技術の進展により、根本的な課題解決を図ることができるかもしれないと考える。
33	原子力立地の推進や増出力、クリアランス制度の定着等については電力会社の努力は見えるが、国としての積極推進に関する具体的施策を感じられない(私見ですが・・・)。再処理や高レベル廃棄物処分地の選定についても、国としての広報活動を具体的に見える形で実行してもらいたい。
34	原子力に関する安全性について、一般市民が理解できるよう、分かりやすく説明して欲しい。例えば、安全確保のための検査や体制など、他企業や事業と比較するなど(大変なことをしていることをもっとPRすべき)。
35	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での科学技術のレベルや経済性等、大局的に考えると、原子力発電が最良と考える。 ・使用済燃料の中間貯蔵施設を更に建設すべきと考える。
36	<p>原子力発電は、燃料の確保や地球温暖化対策の面からも有効であるとかんがえますので、安全対策を大前提に引続き基幹電力として、利用の拡大を図るべきと考えます。</p> <p>核燃料サイクルについては、六ヶ所村の再処理施設にトラブルがあり、なかなか本稼働までなりません。フランスなど順調に稼働中の技術を積極的に活用し、推進すべきと考えます。なお、高レベルの放射性廃棄物の処分場の場所の選定については、国策として、国がより積極的に働きかけすべきと考えます。</p>
37	<p>地球温暖化への対応が世界的に喫緊の課題となる中、新エネルギーは不安定さという弱点があり、原子力の利用促進こそが、温暖化問題解決の鍵であると考えます。</p> <p>まずは、日本国内において、既設の原子力を安定的に稼働させることが、一番即効性のある対策であり、近年、低迷している稼働率を上げるための施策に取り組むべき。検査体制や保守管理の改善もありますが、特に、安全上の問題以外の理由で長期に設備が停止することは回避すべき。</p> <p>また、既設の原子力はいつまでも使い続けることは出来ないため、リプレースに向けた道筋を、今からしっかりと検討し、切れ目なく世代交代が出来るようにすることが大切と考えます。リプレースは、新規立地に比べて、地元との連携、安全管理体制、地元住民の理解浸透など、ハード・ソフト両面でメリットが大きいと考えられ、新規立地と同様の交付金を交付するなど、国はもっと積極的にリプレースを誘導すべき。</p>
38	高速増殖炉は本当に2030年までに商業化できるのか。プルサーマルを2010年度までに16～18基と同様、現実的な目標があるとは思わない。

No.	御 意 見
39	<p>最近の環境問題から原子力の重要性は高まっていると考えます。</p> <p>また、資源の少ない日本においては、準国産エネルギーの重要性はより高くなると思いますが、このためには原子燃料サイクルを確立させることが重要です。</p> <p>ここで、日本の原子力発電所の運転実績は欧米に比べよくない結果と聞きます。この要因として、トラブル発生数などから日本の原子力発電所の安全性や技術力が低いからとは思えず、本当の要因はどこにあるのか、その解決のために具体的に何をしていくのか、ということをご検討していただければ、と考えております。</p> <p>また、原子力発電所の活性化のため、現場や地域で働く人達が、誇りを持って働けるような社会・風潮を形成いただけるような施策をお願いしたい。</p>
40	<p>わが国は資源にとぼしく、エネルギー自給率は4%である。このような状況のもとでは原子力発電に頼らざるを得ないのではないかと。しかし、原子力発電には高レベル廃棄物の問題があり、これが今原子力発電を押し進めて行く上で、また、原子力発電を語る場合の大いなるネックになっている。</p> <p>思うこと① 去年「もんじゅ」を見学する機会があった。1995年ナトリウム漏えい事件があり、2008年まで13年間テストを繰り返している。つまり本稼働されていないことを知った。その後新聞紙上で断片的に本稼働がさまざまな事故でのびのびになっている報道を目にするが、その対応はどうなっているのだろうか。</p> <p>思うこと② 中日新聞の報道で浜岡発電所の原子炉が減価償却・・・(判読不能)・・・減価償却を迎える炉もあると思うが、原子炉の償却年数は何年でその対応はどうなっていたのだろうか。</p> <p>思うこと③ 原子力発電は二酸化炭素を出さず、今騒がれている地球温暖化には役に立っている。しかし今こそ原子力発電の出番だ、という声が上がってもいいと思うがそうではない。そのギャップを感じる。</p> <p>思うこと④ 原子力発電は次の世代に300年にわたって負の遺産を残すという反対意見が根強い。施策の評価やみなさんのいろいろな意見を聞きたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
41	<p>原子力発電は、エネルギー、環境対策に必要不可欠であり、十分なPAを行い、深地層処分も含めて着実に実施・進展されたい。また、ポスト京都の観点では、拘束増殖炉は重要な位置付けにあり、日本は技術的にもローディングポジションにあることを期待します。</p>
42	<p>将来のエネルギー確保の為、原子力もひとつの選択肢である。</p>
43	<p>エネルギーの今後のあり方について興味があるので、将来のことを考えたい。</p>
44	<p>原子力に関する心配は1点、高レベル廃棄物の処分ができるかどうかだと考えています。技術的には深地層に隔離すれば問題ないと考えていますが、今のような誘致の仕方では立地できるとは思えません。この現状をそのように捉えていて、どのように解決するのかお聞きしたい。</p>
45	<p>エネルギー利用については、新エネルギー(代替エネルギー)の開発も含め、最近関心が高まっている。原子力エネルギーに限定していえば、極力、利用範囲を縮小していったほうが良いエネルギー源ではないかと考えている。</p> <p>リスク予測を行い、余裕をもたせた安全基準をうちだされていると思うが、ヒューマンエラー・テロ・災害等の予測不可能(もしくは困難)なリスクの排除が難しいことに対し、事故が起きた時の損害が大きすぎるからである。</p> <p>イノベーションが押しすすめられ、新エネルギーの経済効果が大きいことから考えても、既存の原発施設の安全性・国民へのコンセンサスをより向上させるとともに、今後、エネルギー源としては縮小、廃止の方向性をうちだしてもらいたい。</p>